

(別紙様式21の6)参照

リハビリテーション総合実施計画書

【研究計画・方法に係る添付書類 資料5】

大牟田吉野病院

症例B 開始時

☐ 入院 ☒ 外来 ☐ 訪問 ☐ 通所 計画作成日:氏名: 生年月日: 84歳 ☐ 要支援 ☒ 要介護 2

リハビリテーション担当医: 担当 PT: OT: ST: Ns. 心理士 その他従事者

■本人の希望（したい又はできるようにしたい生活の希望 等）	■家族の希望（本人にしてほしい生活内容、家族が支援できること 等）
スムーズに歩けるようになりたい	歩きが良くなってほしい

■健康状態、経過
原因疾病：一酸化炭素中毒後遺症 発症日・受傷日：1963年11月9日
治療経過(手術がある場合は手術日・術式等)：
合併症・コントロール状態(高血圧,呼吸器疾患,糖尿病等)：
これまでのリハビリテーション実施状況(プログラムの実施内容,頻度,量等)：
目標設定等支援・管理シート： ☐ あり ☒ なし 日常生活自立度： ☐ J1 ☐ J2 ☒ A1 ☐ A2 ☐ B1 ☐ B2 ☐ C1 ☐ C2
認知症である老人の日常生活自立度判定基準(※)： ☐ I ☐ IIa ☒ IIb ☐ IIIa ☐ IIIb ☐ IV ☐ M

■心身機能・構造																	
項目	現在の状況		活動への支障		将来の見込み(※)												
筋力低下	☒	あり	☐	なし	☒	あり	☐	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
麻痺	☐	あり	☒	なし	☐	あり	☒	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
感覚機能障害	☐	あり	☒	なし	☐	あり	☒	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
関節可動域制限	☐	あり	☒	なし	☐	あり	☒	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
摂食嚥下障害	☐	あり	☒	なし	☐	あり	☒	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
失語症・構音障害	☐	あり	☒	なし	☐	あり	☒	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
見当識障害	☒	あり	☐	なし	☒	あり	☐	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
記憶障害	☒	あり	☐	なし	☒	あり	☐	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
その他の 高次脳機能障害	☒	あり	☐	なし	☐	あり	☐	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
☒ CBA	意識	感情	注意	記憶	判断	病識	合計										
	4	3	2	1	1	1	12 点										
()																	
栄養障害	☒	あり	☐	なし	☐	あり	☐	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
褥瘡	☐	あり	☒	なし	☐	あり	☒	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
疼痛	☐	あり	☒	なし	☐	あり	☒	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
社会的行動障害	☐	あり	☒	なし	☐	あり	☐	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
コメント：																	
■環境因子（※課題ありの場合現状と将来の見込みについて記載する）																	
課題	状況																
家族	☐	☐ 独居 ☒ 同居（妻と二人暮らし）															
福祉用具等	☒	☐ 杖 ☐ 装具 ☐ 歩行器 ☐ 車いす ☐ 手すり ☐ ベッド ☐ ポータブルトイレ ☐ 調整 ☐ 未調整															
住環境	☐	☐ 一戸建 ☒ 集合住宅:居住階（階）調整 ☐ 済 ☐ 未済															
自宅周辺	☐	☐ 階段 ☐ エレベーター ☒ 手すり（設置場所:） ☐ 改修中 ☐ 未調整															
社会参加	☐	食卓: トイレ:															
交通機関の利用	☐																
サービスの利用	☐	週3回デイサービス利用															
その他	☐																
■社会参加の状況（過去実施していたものと現状について記載する）																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">家庭内の役割の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>余暇活動（内容および頻度）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会地域活動（内容および頻度）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション終了後にやりたい社会参加活動の取り組み</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										家庭内の役割の内容		余暇活動（内容および頻度）		社会地域活動（内容および頻度）		リハビリテーション終了後にやりたい社会参加活動の取り組み	
家庭内の役割の内容																	
余暇活動（内容および頻度）																	
社会地域活動（内容および頻度）																	
リハビリテーション終了後にやりたい社会参加活動の取り組み																	
■参加																	
☐ CIQ	家庭統合	社会統合	生産性	総合スコア	コメント												
	0	7	6	13													
☐ SRSI	出現している問題	問題の予測	変化への動機づけ	戦略の生成	戦略の使用	戦略の効果	コメント										
	7	7	7	9	9	9	問題への気付きと予測はやや低い傾向。記憶する、考えることの難しさを意識されている。戦略の生成、使用、効果はやや低い傾向。戦略は生活上の困難を要に頼っている状態である。変化への動機づけはリハビリに毎週参加されていることからやや高い傾向にある。										

■活動（基本動作、移動能力、認知機能 等）									
項目	現在の状況					将来の見込み(※)			
寝返り	☒	自立	☐ 一部介助	☐ 全介助	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化				
起き上がり	☒	自立	☐ 一部介助	☐ 全介助	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化				
座位	☒	自立	☐ 一部介助	☐ 全介助	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化				
立ち上がり	☒	自立	☐ 一部介助	☐ 全介助	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化				
床から	☒	自立	☐ 一部介助	☐ 全介助	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化				
立位保持	☐	自立	☒ 一部介助	☐ 全介助	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化				
下肢筋力	右: 0.4kgf/kg 左: 0.5kgf/kg				☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化				
バランス	足踏上のみ				☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化				
3分間歩行試験	27.06秒				☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化				
Timed Up & Go Test					☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化				
TMT(A)	734秒				☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化				
MMSE	15点				☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化				
HDS-R	12点				☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化				
LSA	36				☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化				
服薬管理	☐ 自立 ☐ 見守り ☐ 一部介助 ☒ 全介助				☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化				
コミュニケーションの状況	保続あるものの、良好。				☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化				
■活動（ADL）（※「している」状況について記載する）									
現在の日常生活動作の状況									
自立度		自立	監視	全介助	非介助	BI	FIM	将来の見込み(※)	
ADL・ASL等									
運動項目	セルフケア	食事	☒	☐	☐	☐	10	7	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		整容	☒	☐	☐	☐	0	2	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		清拭	☐	☒	☐	☐	0	2	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		更衣・上半身	☐	☒	☐	☐	5	5	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		更衣・下半身	☐	☒	☐	☐	5	5	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		トイレ動作	☐	☒	☐	☐	5	1	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		排泄コントロール	☐	☒	☐	☐	5	1	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		排泄管理	☐	☒	☐	☐	5	2	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		排泄管理	☐	☒	☐	☐	5	2	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		移動	歩行	☐	☒	☐	☐	10	3
認知項目	コミュニケーション	理解	☐	☒	☐	☐	7		☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		表出	☐	☒	☐	☐	7		☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		社会的交流	☐	☒	☐	☐	5		☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
認知項目	問題解決	問題解決	☐	☒	☐	☐	3		☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		記憶	☐	☒	☐	☐	2		☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
合計点						50	63		

■活動（ADL）（※疾患別リハ開始前の日常生活動作の状況について記載する）					■活動（IADL）（現在の状況について記載する）					
項目	自立	一部介助	全介助	コメント	項目	している	していないができる	改善見込み有	支援が必要	
食事	☒ 10	☐ 5	☐ 0	失敗あるためオムツ着用	屋内移動	☒	☐	☐	☐	
イスとベッド間の移乗	☐ 15	☒ 10	←監視下 移れるが解れない→		☐ 5	☐ 0	屋外移動	☒	☐	☐
整容	☐ 5	☒ 0	☐ 0		交通機関利用	☒	☐	☐	☐	
トイレ動作	☐ 10	☒ 5	☐ 0		買い物	☐	☐	☐	☒	
入浴	☐ 5	☒ 0	☐ 0		食事の準備	☐	☐	☐	☒	
平地歩行	☐ 15	☒ 10	←歩行器等 着いず操作が可能→		掃除	☐	☐	☐	☒	
階段昇降	☐ 10	☒ 5	☐ 0		洗濯	☐	☐	☐	☒	
更衣	☐ 10	☒ 5	☐ 0		整理・ゴミ出し	☐	☐	☐	☒	
排便コントロール	☐ 10	☒ 5	☐ 0		お金の管理	☐	☐	☐	☒	
排尿コントロール	☐ 10	☒ 5	☐ 0		電話をかける	☐	☐	☐	☒	
合計点	55				服薬管理	☐	☐	☐	☒	
					【特記事項】					

■栄養の状況				
身長（ 162 ）cm	体重（ 68 ）kg	栄養補給方法（複数選択可）： ☐ 経管栄養 ☒ 経口（ ☒ 食事 ☐ 補助食品 ）		
BMI（ 25.9 ）kg/m ² ※身長測定が困難な場合は省略可	☒ 18.5~29.9 ☐ 18.5未満 ☐ 30以上 SMI 7.3kg/m ²		総摂取栄養量（ ）kcal たんぱく質（ ）g （経口・経管・静脈全て含む） ※入院直後等で不明な場合は総摂取栄養量でも可	
Alb（ ）g/dl	☐ 3.6以上 ☐ 3.0~3.5 ☐ 3.0未満		必要栄養量 ☒ 男性： 1482 kcal ☐ 女性： kcal	
簡易栄養評価（MNA）	11	栄養状態： ☐ 問題なし ☒ 低栄養リスク ☐ 低栄養 ☐ 過栄養 ☐ その他 ※「問題なし」以外に該当した場合、右欄に記入		

■今後3ヶ月のリハビリテーションについて		
■リハビリテーションの目標	■リハビリテーションの頻度	■リハビリテーションの方針及び留意点 （開始前・訓練中の留意事項、運動強度、負荷量等）
長期 ご家族を含めた心理面へのサポート	週2回	
短期 安全な移動手段の獲得	■リハビリテーション終了の目安・時期 6ヵ月	
■具体的対応		
患者本人 または 家族	週1回当院マイクロバス、週1回ご家族の送迎によりリハビリ参加。自分一人ではリハビリに通院は不可能。	
医師	高次脳機能障害、身体機能障害に対し、リハビリテーションを計画する	
看護師	B*イリテック、健康面への管理、アドバイス	
理学療法士	デジタル機器を用いたバランス練習、全身調整のためのT-trainer、歩行練習を実施する。歩容に対して身体イメージを再教育する。	
作業療法士	デジタル機器を用いた上肢機能訓練、和紙工芸、陶芸作業を実施	
言語聴覚士	デジタル機器を用いた認知機能訓練	
心理士	心理検査、アセスメント、箱庭療法	
■今後十分なリハビリテーションを実施しない場合に予想される状態の変化		
☒ 廃用 ☒ 認知機能低下 ☐ 運動耐容能低下 ☐ ADL低下 ☐ 活動範囲の狭小化 ☐ 社会参加の変化		
■前回計画書作成時からの改善・変化		
☐ -1 ☒ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 悪化 維持 改善（少） 改善（中） 改善（大） ○（ ）で 点程度の改善 総合意見 介助歩行においても転倒のリスクが高く、キーパーソンである妻の介助量負担も考慮し、介護保険下での歩行補助具の利用を提案した。屋内は歩行移動のため、身体機能、体力向上のため運動課題を実施。精神面には認知課題、精神賦活を目的に心理面へのフォローを行いながら実施。		
特記事項		

(別紙様式21の6)参照

リハビリテーション総合実施計画書

【研究計画・方法に係る添付書類 資料5】

大牟田吉野病院

症例B 終了時

☐ 入院 ☒ 外来 ☐ 訪問 ☐ 通所 計画作成日: 2023.11.10氏名: 生年月日: 84歳 ☐ 要支援 ☒ 要介護 4
リハビリテーション担当医: 担当 PT: OT: ST: Ns. 心理士 其他従事者:

■本人の希望 (したい又はできるようにしたい生活の希望 等)
スムーズに歩けるようになりたい

■家族の希望 (本人にしてほしい生活内容、家族が支援できること 等)
歩きが良くなってほしい

■健康状態、経過
原因疾病: 一酸化炭素中毒後遺症 発症日・受傷日: 1963年11月9日
治療経過(手術がある場合は手術日・術式等):
合併症・コントロール状態(高血圧,呼吸器疾患,糖尿病等):
これまでのリハビリテーション実施状況(プログラムの実施内容,頻度,量等):
目標設定等支援・管理シート: ☐ あり ☒ なし 日常生活自立度: ☐ J1 ☐ J2 ☒ A1 ☐ A2 ☐ B1 ☐ B2 ☐ C1 ☐ C2
認知症である老人の日常生活自立度判定基準(※): ☐ I ☐ IIa ☒ IIb ☐ IIIa ☐ IIIb ☐ IV ☐ M

■心身機能・構造																	
項目	現在の状況		活動への支障		将来の見込み(※)												
筋力低下	☒	あり	☐	なし	☒	あり	☐	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
麻痺	☐	あり	☒	なし	☐	あり	☒	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
感覚機能障害	☐	あり	☒	なし	☐	あり	☒	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
関節可動域制限	☐	あり	☒	なし	☐	あり	☒	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
摂食嚥下障害	☐	あり	☒	なし	☐	あり	☒	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
失語症・構音障害	☐	あり	☒	なし	☐	あり	☒	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
見当識障害	☒	あり	☐	なし	☒	あり	☐	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
記憶障害	☒	あり	☐	なし	☒	あり	☐	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
その他の高次脳機能障害	☒	あり	☐	なし	☐	あり	☐	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
☒ CBA	意識	感情	注意	記憶	判断	病識	合計										
	3	3	3	2	2	2	15 点										
()																	
栄養障害	☒	あり	☐	なし	☐	あり	☒	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
褥瘡	☐	あり	☒	なし	☐	あり	☐	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
疼痛	☒	あり	☐	なし	☐	あり	☐	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
社会的行動障害	☐	あり	☒	なし	☐	あり	☐	なし	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化								
コメント:																	
■環境因子 (※課題ありの場合現状と将来の見込みについて記載する)																	
家族	☐	☐ 独居 ☒ 同居 (妻と二人暮らし)															
福祉用具等	☐	☐ 杖 ☐ 装具 ☐ 歩行器 ☒ 車いす ☐ 手すり ☐ ベッド ☐ ポータブルトイレ ☐ 整 ☐ 未調整															
住環境	☐	☒ 一戸建 ☐ 集合住宅:居住階 () 階 ☐ 階段 ☐ エレベーター ☐ 手すり (設置場所:) ☐ 改修中 ☐ 食卓: ☐ トイレ: ☐ 未調整															
自宅周辺	☐																
社会参加	☐																
交通機関の利用	☐																
サービスの利用	☐	週3回デイサービス利用															
その他	☐																
■社会参加の状況 (過去実施していたものと現状について記載する)																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">家庭内の役割の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>余暇活動 (内容および頻度)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会地域活動 (内容および頻度)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション終了後にやりたい社会参加活動の取り組み</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										家庭内の役割の内容		余暇活動 (内容および頻度)		社会地域活動 (内容および頻度)		リハビリテーション終了後にやりたい社会参加活動の取り組み	
家庭内の役割の内容																	
余暇活動 (内容および頻度)																	
社会地域活動 (内容および頻度)																	
リハビリテーション終了後にやりたい社会参加活動の取り組み																	
■参加																	
☒	CIQ	家庭統合	社会統合	生産性	総合スコア	コメント 妻への依存が強く、妻の高齢化、体調の変化の影響が大きい。											
		0	5	4	9												
☒	S R S I	出現している問題	問題の予測	変化への動機づけ	戦略の生成	戦略の使用	戦略の効果	コメント 問題への気付きと予測は中程度。記憶する、考えることの難しさは意識されている。戦略の生成・使用、効果はやや低い傾向。戦略としては生活上の困難を全般的に要に頼っている状態。移動、特に歩行機能低下による介助さえあれば、変化への動機づけは中程度で改善し、リハビリにも毎週参加できる。家族の介護負担の軽減が必要。									
		6	6	5	8	8	9										

■活動 (基本動作、移動能力、認知機能 等)									
項目	現在の状況		将来の見込み(※)						
寝返り	☒	自立	☐ 一部介助	☐ 全介助	☐ 改善	☒ 維持	☐ 悪化		
起き上がり	☒	自立	☐ 一部介助	☐ 全介助	☐ 改善	☒ 維持	☐ 悪化		
座位	☒	自立	☐ 一部介助	☐ 全介助	☐ 改善	☒ 維持	☐ 悪化		
立ち上がり	☒	自立	☐ 一部介助	☐ 全介助	☐ 改善	☒ 維持	☐ 悪化		
床から	☒	自立	☐ 一部介助	☐ 全介助	☐ 改善	☒ 維持	☐ 悪化		
立位保持	☐	自立	☒ 一部介助	☐ 全介助	☐ 改善	☒ 維持	☐ 悪化		
下肢筋力	右: 0.5kgf/kg 左: 0.5kgf/kg				☐ 改善	☒ 維持	☐ 悪化		
バランス	足踏上のみ				☐ 改善	☒ 維持	☒ 悪化		
3分間歩行試験					☐ 改善	☒ 維持	☐ 悪化		
Timed Up & Go Test	40.28秒				☐ 改善	☒ 維持	☐ 悪化		
TMT(A)	3分以上4				☐ 改善	☒ 維持	☐ 悪化		
MMSE	8点				☐ 改善	☒ 維持	☒ 悪化		
HDS-R	5点				☐ 改善	☒ 維持	☒ 悪化		
LSA	36				☐ 改善	☒ 維持	☐ 悪化		
服薬管理	☐ 自立 ☐ 見守り ☐ 一部介助 ☒ 全介助				☐ 改善	☒ 維持	☐ 悪化		
コミュニケーションの状況	保続あるものの良好				☐ 改善	☒ 維持	☐ 悪化		
■活動 (ADL) (※「している」状況について記載する)									
現在の日常生活動作の状況									
自立度		自立	監視	一部介助	全介助	非実施	BI	FIM	将来の見込み(※)
ADL・ASL等									
運動項目	セルフケア	食事	☒	☐	☐	☐	10	7	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		整容	☒	☐	☐	☐	0	2	☐ 改善 ☒ 維持 ☒ 悪化
		清拭	☐	☒	☐	☐	0	2	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		更衣・上半身	☐	☐	☐	☐	5	5	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		更衣・下半身	☐	☐	☒	☐	5	5	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		トイレ動作	☐	☒	☐	☐	5	1	☐ 改善 ☒ 維持 ☒ 悪化
		排泄コントロール	☐	☒	☐	☐	5	1	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		排泄管理	☐	☒	☐	☐	5	2	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		移動	☐	☒	☐	☐	5	3	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
		移動	☐	☒	☐	☐	5	3	☐ 改善 ☒ 維持 ☐ 悪化
認知項目	コミュニケーション	理解	☐	☒	☐	☐	7		
		表出	☐	☒	☐	☐	7		
		社会的交流	☐	☒	☐	☐	5		
		問題解決	☐	☒	☐	☐	3		
		記憶	☐	☒	☐	☐	2		
合計点							45	62	

■活動（ADL）（※疾患別リハ開始前の日常生活動作の状況について記載する）					■活動（IADL）（現在の状況について記載する）				
項目	自立	一部介助	全介助	コメント	項目	している	していないができる	改善見込み有	支援が必要
食事	☒ 10	☐ 5	☐ 0	屋内のみ歩行(一部介助) 屋外ではw/c移動(全介助) 失敗あるためオムツ着用	屋内移動	☒	☐	☐	☐
イスとベッド間の移乗	☐ 15	☒ 10	←監視下 座れるが移れない→		屋外移動	☒	☐	☐	☐
整容	☐ 5	☒ 0	☐ 0		交通機関利用	☒	☐	☐	☐
トイレ動作	☐ 10	☒ 5	☐ 0		買い物	☐	☐	☐	☒
入浴	☐ 5	☒ 0	☐ 0		食事の準備	☐	☐	☐	☒
平地歩行	☐ 15	☒ 10	←歩行器等 車いす使用が可能→		掃除	☐	☐	☐	☒
階段昇降	☐ 10	☒ 5	☐ 0		洗濯	☐	☐	☐	☒
更衣	☐ 10	☒ 5	☐ 0		整理・ゴミ出し	☐	☐	☐	☒
排便コントロール	☐ 10	☒ 5	☐ 0		お金の管理	☐	☐	☐	☒
排尿コントロール	☐ 10	☒ 5	☐ 0		電話をかける	☐	☐	☐	☒
合計点	55				服薬管理	☐	☐	☐	☒
					【特記事項】				

■栄養の状況			
身長 (162)cm	体重 (64)kg	栄養補給方法 (複数選択可) : ☐ 経管栄養	
BMI (24.4)kg/m ²	※身長測定が困難な場合は省略可	☒ 経口 (☐ 食事 ☐ 補助食品)	総摂取栄養量 ()kcal
↳ ☒ 18.5~29.9 ☐ 18.5未満 ☐ 30以上	SMI 7.2kg/m ²	☐ 静脈栄養 (☐ 末梢 ☐ 中心)	たんぱく質 ()g
Alb()g/dl	↳ ☐ 3.6以上 ☐ 3.0~3.5 ☐ 3.0未満	嚥下調整食の必要性: ☒ 無 ☐ 有	(経口・経管・静脈全て含む) ※入院直後等で不明な場合は総摂取栄養量でも可
簡易栄養評価 (MNA)	9	[学会分類コード:	必要栄養量 ☒ 男性: 1416 kcal
		栄養状態: ☐ 問題なし ☒ 低栄養リスク ☐ 低栄養	☐ 女性: kcal
		☐ 過栄養 ☐ その他	⇒ たんぱく質 52.1 g

■今後3ヶ月のリハビリテーションについて		
■リハビリテーションの目標	■リハビリテーションの頻度	■リハビリテーションの方針及び留意点 (開始前・訓練中の留意事項、運動強度、負荷量等) ・転倒注意 ・右頭頂部にシャント(水頭症)
長期 ご家族を含めた心理面へのサポート	週2回	
短期 安全な移動手段の獲得	■リハビリテーション終了の目安・時期 6ヵ月	

■具体的対応	
患者本人 または 家族	週1回マイクロバス、週1回ご家族の送迎により来院され、リハビリ参加。介護負担の軽減や障害の理解のためにもご家族にも一部参加して頂く。
医師	高次脳機能障害、身体機能障害に対し、リハビリテーションの必要性を説明。定期的なご家族への説明。
看護師	バイタルチェック、健康面への管理。栄養状態改善のために、妻も含めた栄養指導を行う。
理学療法士	デジタル機器を用いたバランス練習、体力、持久力向上のためT-trainer、全身調整運動を実施する。特に転倒予防、在宅生活継続のためにA D L動作練習、歩行練習(応用歩行)が必要。
作業療法士	デジタル機器を用いた上肢機能訓練実施。和紙工芸、陶芸作業は興味あるものの作業が長続きしない、失行により指示が通らない等あるため、折紙折り、パズル、積み木など馴染みがあるものから段階を上げていく。
言語聴覚士	コミュニケーションにおいて思っていることを表出することが難しく、保続もある。またそこから別の内容へと話が変わるため、絵カードを見て名前を言う課題を行う。復唱、音読、意味ヒント、語頭音ヒントなど取り入れる。理解ある人のサポートが必要。
心理士	評価結果から得られた情報を家族を含めチームで共有し、今後の介入課題、方法などの手立てにするために、情報を整理、伝達する。定期的な検査、アセスメントを実施する。

■今後十分なリハビリテーションを実施しない場合に予想される状態の変化	
☒ 廃用	☒ 認知機能低下 ☒ 運動耐容能低下 ☒ ADL低下 ☒ 活動範囲の狭小化 ☒ 社会参加の変化

■前回計画書作成時からの改善・変化	
☐ -1 ☐ 0 ☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 悪化 維持 改善(少) 改善(中) 改善(大) ○ () で 点程度の改善 総合意見 歩行補助具の利用開始。屋内以外の車いす移動により転倒のリスク軽減することで社会参加可能。転倒リスク高く、体力低下、低栄養もあるため在宅生活を家族を含めて観察し、介護保険を併用しサポート。社会参加を継続するためには、転倒予防、ADL動作への介護サポートも必要である。	

■特記事項	

【資料 3】

LSA、CIQ、CBA、

身体活動

LSA レベル 1 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)

介入前	介入後	P 値
6.6±1.5	6.8±1.6	1.0000

LSA レベル 1 (CO 中毒後遺症患者)

介入前	介入後	P 値
5.5±1.4	5.6±1.7	1.0000

LSA レベル 2 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)

介入前	介入後	P 値
10.6±4.9	10.5±4.7	0.5000

LSA レベル 2 (CO 中毒後遺症患者)

介入前	介入後	P 値
13.6±4.0	12.3±4.1	0.5000

LSA レベル 3 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)

介入前	介入後	P 値
11.1±8.6	12.6±8.3	0.5000

LSA レベル 3 (CO 中毒後遺症患者)

介入前	介入後	P 値
16.3±6.5	16.5±6.5	0.5000

LSA レベル 4 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)

介入前	介入後	P 値
13.9±5.7	5.8±1.7	1.0000

LSA レベル 4 (CO 中毒後遺症患者)

介入前	介入後	P 値
15.1±5.9	14.3±5.6	1.0000

LSA レベル 5 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)

介入前	介入後	P 値
7.7±6.3	7.3±7.2	1.0000

LSA レベル 5 (CO 中毒後遺症患者)

介入前	介入後	P 値
11.8±4.8	11.4±6.9	1.0000

LSA 合計 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)

介入前	介入後	P 値
49.9±23.3	51.9±23.1	0.7500

LSA 合計 (CO 中毒後遺症患者)

介入前	介入後	P 値
64.3±17.1	62.2±18.8	0.7500

Community Integration Questionnaire (CIQ)

CIQ 家庭 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)

介入前	介入後	P 値
1.6±2.3	1.8±2.6	1.0000

CIQ 家庭 (CO 中毒後遺症患者)

介入前	介入後	P 値
2.4±2.7	2.5±3.1	1.0000

CIQ 社会 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)

介入前	介入後	P 値
3.8±2.5	3.9±2.3	0.3750

CIQ 社会 (CO 中毒後遺症患者)

介入前	介入後	P 値
4.8±2.4	5.0±1.6	0.3750

CIQ 生産 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)

介入前	介入後	P 値
2.1±1.5	2.0±1.3	0.5000

CIQ 生産 (CO 中毒後遺症患者)

介入前	介入後	P 値
2.7±1.9	2.3±1.6	0.5000

CIQ 総合 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)

介入前	介入後	P 値
7.5±5.1	7.7±5.6	0.1875

CIQ 総合 (CO 中毒後遺症患者)

介入前	介入後	P 値
9.8±5.4	9.8±5.7	0.1875

※前後比較は、**Wilcoxon rank-sum test** を使用した。

認知関連行動アセスメント (CBA)

CBA 意識 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)

介入前	介入後	P 値
4.3±0.95	4.5±0.82	1.0000

CBA 意識 (CO 中毒後遺症患者)

介入前	介入後	P 値
4.6±0.73	4.7±0.76	1.0000

CBA 感情 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)

介入前	介入後	P 値
4.2±0.75	3.9±0.83	0.6250

CBA 感情 (CO 中毒後遺症患者)

介入前	介入後	P 値
4.2±0.67	4.0±0.58	0.5000

CBA 注意 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)

介入前	介入後	P 値
3.5±0.97	3.5±0.69	1.0000

CBA 注意 (CO 中毒後遺症患者)

介入前	介入後	P 値
3.6±1.01	3.7±0.49	1.0000

CBA 記憶 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)

介入前	介入後	P 値
3.5±1.15	3.7±1.01	1.0000

CBA 記憶 (CO 中毒後遺症患者)

介入前	介入後	P 値
3.2±1.22	3.7±1.11	0.5000

CBA 判断 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)

介入前	介入後	P 値
3.5±1.10	3.6±1.12	1.0000
CBA 判断 (CO 中毒後遺症患者)		
介入前	介入後	P 値
3.2±1.20	3.6±0.98	1.0000
CBA 病識 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)		
介入前	介入後	P 値
3.6±1.93	3.7±1.01	1.0000
CBA 病識 (CO 中毒後遺症患者)		
介入前	介入後	P 値
3.4±1.24	3.9±0.90	1.0000
CBA 合計 (CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者)		
介入前	介入後	P 値
22.6±5.0	23.8±4.2	0.7891
CBA 合計 (CO 中毒後遺症患者)		
介入前	介入後	P 値
22.2±5.4	23.6±4.3	1.0000

※前後比較は、**Wilcoxon rank-sum test** を使用した。

【資料4】 Self-Regulation Skills Interview：自己統制能力質問紙（SRSI）

※点数が低いほど Awareness が高い。

※項目「変化への動機づけ」は点数が高いほど変化への動機づけが高い。

※失語症患者は除外

出現している問題（CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者）

介入前	介入後	P 値
5.5±2.2	4.5±1.4	0.2500

出現している問題（CO 中毒後遺症患者）

介入前	介入後	P 値
5.0±1.7	4.5±1.4	0.2500

問題の予測（CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者）

介入前	介入後	P 値
5.7±2.5	4.2±1.3	0.1250

問題の予測（CO 中毒後遺症患者）

介入前	介入後	P 値
5.6±2.0	4.2±1.3	0.1250

変化への動機づけ（CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者）

介入前	介入後	P 値
7.1±3.2	8.0±2.3	0.7500

変化への動機づけ（CO 中毒後遺症患者）

介入前	介入後	P 値
7.7±3.6	8.0±2.3	0.7500

戦略の生成（CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者）

介入前	介入後	P 値
5.7±2.0	5.7±1.6	0.0625

戦略の生成（CO 中毒後遺症患者）

介入前	介入後	P 値
6.4±2.1	5.7±1.6	0.0625

戦略の使用（CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者）

介入前	介入後	P 値
5.7±2.0	6.2±2.1	0.1250

戦略の使用（CO 中毒後遺症患者）

介入前	介入後	P 値
6.4±2.1	6.2±2.1	0.1250

戦略の効果（CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者）

介入前	介入後	P 値
6.2±2.0	6.7±2.3	0.5000

戦略の効果（CO 中毒後遺症患者）

介入前	介入後	P 値
7.0±2.0	6.7±2.3	0.5000

SRSI 合計（CO 中毒後遺症患者＋一般脳卒中患者）

介入前	介入後	P 値
31.4±9.7	29.2±8.3	0.0313